

第28回街歩き 探偵団日本橋川・神田川に挑む！！

2006.3.20

窪田 照彦+永津 努

今回照明探偵団は26名の団員と共に、東京の急速に進む開発とともに閉ざされていった日本橋川、神田川を一隻の船に乗り込み調査に入った。明るさが蔓延する東京の中であって、今尚闇が残された場所。団員達は高まる好奇心を抑え、闇に潜入したのであった・・・

■人工の闇

新宿、渋谷、銀座……今まで東京の夜といえば、漠然と明るいなあというイメージしか持っていなかった。どこに行ってもモノが溢れ、その数だけ光もある。まるでおばさんたちの井戸端会議の様にワイワイ、ガヤガヤとうるさい光が溢れている。しかし、今回日本橋川と神田川を調査したことで、東京夜景のイメージが変わった。たくさんの“闇”の存在の発見だ。“闇”といっても単なる暗闇ではなく、橋や首都高、ジャンクションなど、人間の手によって造り上げられた“人工の闇”だ。とくに船で橋桁をくぐり抜けるときは本当に真っ暗だった。東京にもこんなに暗い場所が残っていたということを実感した。闇という言葉にあまりいい印象は無いものだが、今回の闇の体験は刺激になった。日頃、夜になっても明るい場所で過ごすことが多い分、むしろ暗い場所を無意識に求めているのかもしれない。今回こうした“闇”に出会えたからこそ、東京の夜がどれほど明るいものなのかを改めて感じる事ができた。自分自身が照明デザイナーという、光で空間をつくり上げることを仕事にしているのだから、光で溢れる東京を変えていきたいという想いを新たにしたい。

■闇の中に光アリ

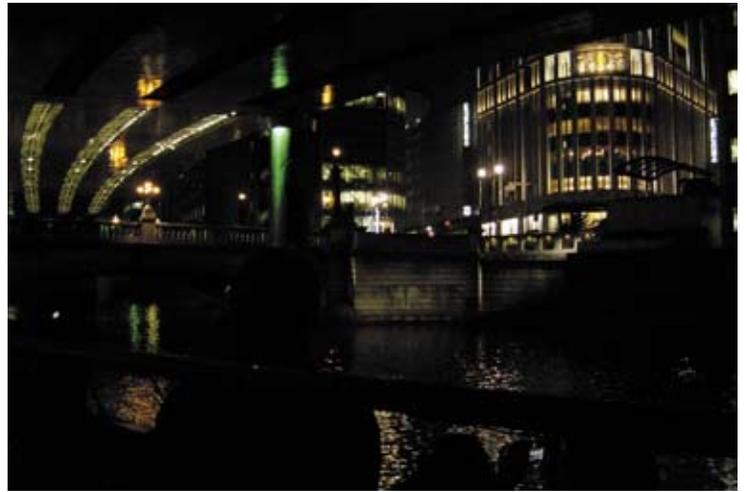
当たり前と言えば当たり前なのだが、暗いところほど光の効果は出やすい、ということを実感する。湘南工作さんからお借りしたキセノンランプで、船の上からいたるところを照らし上げてみたが、実に面白かった。水面を照らせれば川縁に波紋が写り込み、橋桁を照らせれば一直線に伸びる光があたかもスパイ探してもしているかのようだ。4本の高速道路が合流する江戸橋ジャンクションでは闇と光が交錯して見物だった。車両の光が曲がりくねったジャンクションの高架下に入り込み、きらめいていた。普段とは違う視点から街を見ると、見たことの無い光と出会うことができる。(窪田 照彦)



聖橋近く、三様の競演者が織り成すハーモニー



伝統を伝える光とジャンクな光が重なる秋葉原周辺



日本橋付近の“人工の闇”



江戸橋ジャンクション



闇の中に、いざっ潜入!!

■三様の競演者

日本橋を掻い潜って神田川に出ると、そこには高く聳え立つお堀がある。お堀というと、圧迫感があって光が差し込まない暗いイメージがあるが、ここは違う。むしろ、このお堀こそが神田川に心地良い闇をもたらしている。とくに闇がその力を発揮している場所が聖橋周辺だ。神田川を下っていき、ふと上を見上げると電車が流れ星であるかのように走り、私たちが乗った船を導いていく。誘われるように進んで行ったその先には、間接照明による上品で高貴な光の衣を纏った聖橋が、心地良く私たちを迎え入れてくれた。これは私の目の錯覚ではなく、周囲を優しく包み込む闇の存在がそういった雰囲気を出していた。ここには moving light, elegant light, soft darkness。この三様の競演者達のハーモニーが確かに存在していた。

■やっぱりアキバ

暗い川を下って来た後に出会う秋葉原の光に驚かされる。交通博物館には明治時代に建てられたレンガ造りの壁面があり、ライトアップされたレンガの色合いが時代の深みを感じさせてくれる。そう思って反対側に目を遣ると、今度は秋葉原電気街のジャンクな欲の固まりのような光が、これでもかこれでもかと主張してくる。この光は川から見ても強烈な眩しさを感じるほどだ。このような新旧の建物が入り混じる街が増えていく中で、たくさんの種類の光をどうやって調和させるかも、今後の大きな課題になっていこう。

■別世界

今回の街歩きで、日常ではできない非常に面白い体験ができた。川から見る景色は、地上より低い位置から見上げるものが多くあって、普段見ている景色とは別世界だった。とくに驚いたのは、普段街を歩いている時には眩しく、時に暴力的に感じる光が、嘘のように静かだったことだ。川から見上げるとそこには光がうごめいているかのような感じがしたが、強い光が直接川に差し込むことはほとんどない。川面にいながらまるで水面下のように穏やかで心地の良い闇を感じる事ができた。(永津 努)

第31回 研究会サロン

街歩き、ライトアップninja、クリスマスイルミネーション調査など

2006.4.10

斉藤 有希子

■神田川街歩きの報告

永津団員より日本橋川・神田川街歩きの報告がありました。今回は、極寒の中団員それぞれの視点でおもしろいものを見つけた写真と窪田団員が撮った映像を同時に見ながらの報告でした。下から見る高速道路、日本橋、飯田橋の街、いつもと違った角度から光が見つけられたようです。川から見たライトアップされた聖橋や秋葉原電気街について、プロの見解が賛否両論交わされて、「なるほど」と思うことの連続でした。

■イベント ライトアップニンジャ @Singapore の報告

面出団長より、2005年11月のシンガポールでのデザインフェスティバルの一環として開催されたライトアップニンジャ @Singapore の報告です。エルコ、カラーキネティクス、フロス、マーチン・プロフェッショナルなど各メーカーも協賛して、街灯を消して公園に闇をつくりながら、Duxton Plain Parkをライトアップ。面出団長はイベントに参加している人達の写真を中心に紹介されたので、「当日は若い人やお年寄りまで幅広い年齢層の方たちが参加してひとつのイベントを作って楽しい時となった」という一体感がうかがえました。

■国内調査レポート 京都の報告

村岡団員から四条通、鴨川通りを中心とした京都調査の報告がありました。調査の結果、四条通は“通りとして”必要な光が整理されている印象を受けたそうです。隈研吾氏がデザインしたココナラスマ、雨に濡れて趣がある映画にできそうな祇園、四条通に建てられたレイ・ヴィトン…などの画像が紹介されました。将軍塚から撮影した3枚の写真を横に繋げた写真は、京都の街を一望する眺めの良いものでした。

■クリスマスイルミネーション調査 2005

武蔵野美術大学の川瀬団員より、面出ゼミの学生が調査したクリスマスイルミネーションの報告がありました。「恋人達のクリスマス」の曲と共に、六本木ヒルズ、ミレナリオ、銀座、恵比寿、汐留、新宿サザンテラス・・・などが映像と画像で紹介されました。2005年イルミネーションの特徴はLEDがらんだんに散りばめられ、使われていたということです。今年は実際にイルミネーションの違いも楽しみつつ、ぜひロマンチックな気分になりたいですね。



熱心に報告される面出団長



写真と映像のコラボレーション



団員が聞き入る様子

■国内調査レポート 神戸の報告

三宮・ポートアイランド・六甲山を中心に調査した永津団員からの報告がありました。以前調査した横浜の写真と比較し、どのように違うのだろう、と意見が交わされました。観覧車など共通点があるようですが、「神戸は海岸に光が集まっていて山側が暗く、空間を感じる」との永津団員の分析でした。六甲山から見る大阪の街は、光が集中して大阪の人柄を表すようにまぶしく感じました。

■イベント報告 100万人のキャンドルナイト @Omotesando 2005 冬至

ケヤキ行灯、ショッピングバック行灯、傘行灯などの画像を紹介しながら、田沼団員からの報告です。学生達が工夫を凝らして作成した行灯を持ち、表参道を歩く人々。2006年夏至は表参道近くの小学校にも参加してもらって、6月21日(水)に開催される予定です。次回のキャンドルナイトはどんなスローな夜になるのでしょうか!?(斉藤有希子)

The world of Tokyo

2006.5.22-27

Toh Yah Li

The luminous icons of Tokyo (月)

I was seeking the various world-renowned luminous icons of Tokyo on the first day which does not require much effort. The red and white paper lanterns that are outside restaurants, the rice-paper Shoji screens, the vending machines at every other corner of each street, the neon signages on skyscrapers and the signs at train stations.

In the sky at Roppongi (火)

At the top of Roppongi, I felt as though I was at the top of Tokyo. The entire city layout was right before my eyes. The arteries of the city are the long trials of fiery red line of cars on major roads, intersecting with major junctions with many heavily illuminated with neon lights. Interestingly, the large areas of dark zones are actually green parks.



patterns on the ground at Roppongi Hills



the signs at train stations



the vending machines at every other corner of each street

A rainy Wednesday night in Shibuya (水)

I stood at the Shibuya scramble junction on the side of the Shibuya JR station. The rain did not deter anyone from crossing this important scramble. Huge crowds were waiting from all directions as the rain tapping gently on the transparent and white umbrellas of the awaiting pedestrians. With the animated neon lights on the skyscrapers on all sides, I felt that I was in the world of the Matrix. Once the lights turned green, the men in black suits with similar umbrellas crossed the junction in all directions. The nightscape turned into one with many projected images of neon lights on the white umbrellas and the wet ground which has become reflective due to the pools of water.



scramble junction in Shibuya

「TOKYO は飽きることの無い魅惑的な街 - スケールの違うものや場所、その対比が絶妙なバランスでせめぎ合うワンダーランド。毎日がきのうとは違う TOKYO を見つける新しい発見と観察の連続だった。」

そう語るのは、シンガポール LPA から 1 週間の研修で東京を訪れた Yah Li。彼女の目に映った TOKYO の街をレポートしてもらいました。

Inspirations from light and shadow (木)

Upon entering the grounds of the shrine, I was immediately captivated by the beauty and the setting. I felt as though time has stopped and I was immediately transported into a different space and zone. With light filtering through the canopies of the large ancient trees, pools of light were captured and reflected off the ground covered with light grey gravels. The priestess in white and red was embraced by pools of light with an indescribable aura around her. In this space, the light grey coloured ground does not feel grounded and in fact, it feels as though it is very light and floating as opposed to the conventional darker coloured ground or floor.

Walking through the parks of Ueno, I thoroughly enjoyed the patterns on the ground created by light filtered from the tree canopies. At Roppongi, an abstraction of this phenomenon was re-created using spotlights.



iconic red paper lanterns

2 different sides of Tokyo (金)

The fashion streets of Omotesando, Aoyama and Ginza, glittered with glamour and spectacle. The high fashion shops and high-end restaurants are sometimes intimidating. The verticality of skyscrapers seemed to be as unattainable as the fashion goods sold inside the buildings. Shops used a great number of adjustable downlights to create the glitter in their products. The levels of light were blasting from all directions, from the neon signs, from within the shops, from showcase lighting and from the streets- making me feel a little alienated and detached from this world.

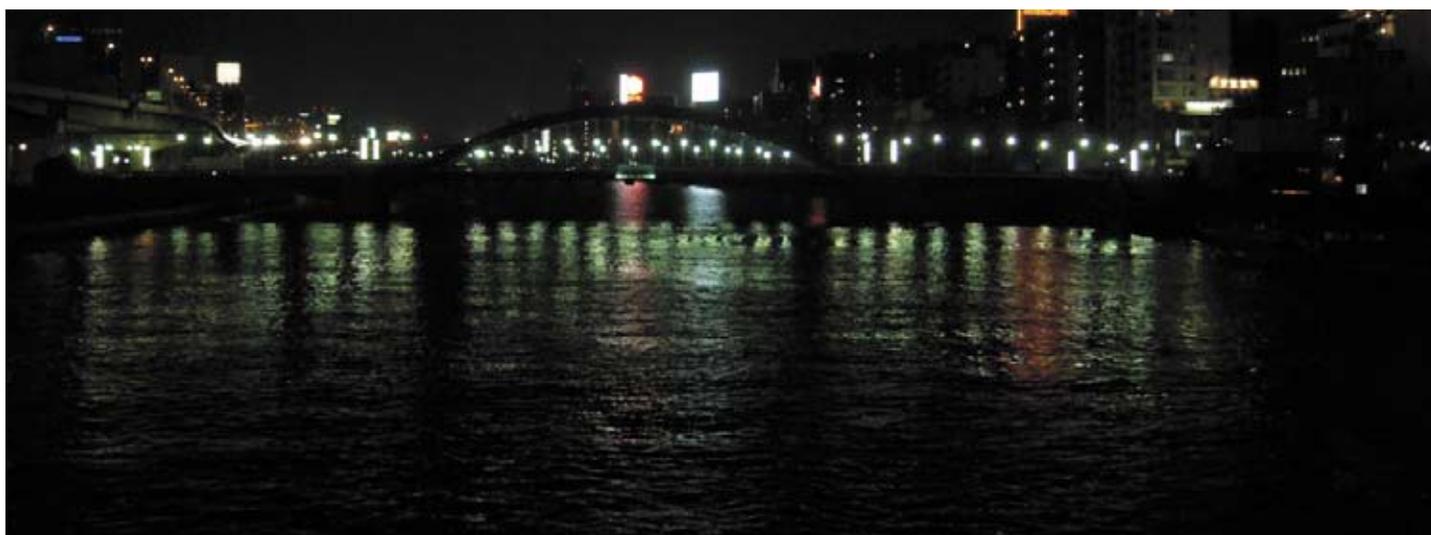
In contrast, a walk under the railway tracks and bridges was a heartwarming experience. The spaces under the railway tracks are lined with pubs and restaurants with the iconic red paper lanterns. The spaces are scaled down and the physical distance among people is reduced with a few drinks of Sake in a small somewhat cramped yet human-scaled comfortable space.



the fashion street of Omotesando

At the river bank of Sumida River on a Saturday evening. (土)

Crossing a bridge over the Sumida River, I was immediately taken aback that the River was completely dark and there was a lack of river life. In many cities including Tokyo, the river can be considered as the place where the city started. The river water was dark with occasional reflected images of the neon signs from buildings which are set back quite far away from the River. The presence of water can hardly be felt and the existence of the river seems to take on a less important role. (Toh Yah Li)



at the river bank of Sumida River

Light+Building2006 調査報告 ドイツ フランクフルト / ミュンヘン

2006.4.23-26

窪田 麻里+岡本 賢

4年に一度の祭典 FIFA ワールドカップの開催で世界中から熱い視線が注がれているドイツ。4月末に行われた世界最大の国際照明見本市、Light+Building2005に照明業界の最新の動向を探るべくワールドカップ開催直前のフランクフルトに乗り込みました。



MartinのT5 RGB 蛍光灯の床埋め込み照明

■真夏の太陽

Light+Building 期間中は会場だけでなく「Luminale」と題し街の至る所でライトアップやインスタレーションなど光のイベントが行われています。街をあげてのイベントの規模も相当なもので、企画の数は全部で165個、これを出来るだけ効率よく回するために、なんと街の各ポイントに停車する無料の巡回バスまであります。

特に印象的だったのは57台にも及ぶ投光器でデライトを再現しようという企画。夜の街を歩いていると一際明るい光が漏れているスペースがあり、そこに足を踏み入ると大きなドーム上の天井にぐるりと円形状に投光器が配置された空間が現れます。投光器から降り注ぐ色温度の高い光はまさに真夏の太陽光。夜であることを忘れてしまいます。たまたま持参していた照度計を光の中心に置くと、周囲の人が駆け寄り、照度計の数値にみんなの視線が集まりました。114kwの電気容量から作り出される人工照明の照度は20万lxでした。改めて太陽の凄さを実感する貴重な体験でした。

■ Light+Building2006

“世界最大照明見本市”と呼ばれるだけあって会場となるフランクフルトメッセの広さは圧巻で、ターゲットを絞って効率よく回らなければお目当ての器具を見逃してしまうという事態になり兼ねません。2日間の日程で挑んだ我々でしたが時間いっぱい歩き回っても全てを見尽くす事は当然のことながら出来ませんでした。

■ LEDの目指すところ

近年飛躍的にシェアを拡大し、多種多様の器具を生み出したLEDは依然好調で、各社とも競って新商品のアピールに余念がありません。各社の競争により、これまで存在したあらゆる照明器具に置き換えられてきたLEDは、アプリケーションの開拓から光源そのものの効率をより高めたり、ハード面だけでなくソフトウェアの面での充実を計るという方向性を模索しているように感じました。

■ 蛍光灯の実力

例年LEDばかり注目が集まっていますがLEDのシェアが拡大されたことにより、逆にその良さが見直されているのが蛍光灯です。長寿命、省電力、コンパクトと良いイメージばかりのLEDですが、数年前は100,000時間と言われたその寿命は約40,000時間で当然メンテナンスが必要で、既存の照明器具に置き換えようにも照度が足りない、省電力だがイニシャルコストが高い等、その勢いは少し落ち着いてきています。そこで安価で明るく長寿命の蛍光灯が再び見直されているわけです。今回のLight+Buildingでもその傾向は強く現れており、T5管のRGB蛍光灯を用いたカラーチェンジャー機能を有する器具等が多く目に留まりました。



114kwの光



Allianz Arena 午後8時30分

Allianz Arena 午後9時

Allianz Arena 午後9時30分

■ Allianz Arena

せっかくドイツまで来たのでワールドカップの熱気を少しでも感じようとミュンヘンまで足を伸ばし、ヘルツォーク&ド・ムーロンが設計の話題のスタジアム「Allianz Arena」を見てきました。地元の強豪バイエルンミュンヘンのホームスタジアムです。既にCMなどでなじみの旭硝子の菱形特殊フィルムETFEで覆われた外観は、夜になると蛍光灯の光で巨大な繭のように発光します。残念ながら我々が訪れた日は試合はなく派手な演出は見られませんが、試合のない日でも照明は20:30から点灯し、電球色、赤、青と30分ごとに色を変えながら点灯します。周辺には建物などがほとんどなく、闇の中から一気に照明が点灯し、スタジアムが浮かび上がる瞬間の迫力は圧巻です。ミュンヘンを訪れた際は是非お立ち寄りください。一見の価値ありです。(岡本 賢)

【照明探偵団の活動は以下の 22 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
松下電工株式会社
株式会社ウシオスペース
ヤマギワ株式会社
山田照明株式会社
マックスレイ株式会社
ニッポ電機株式会社
株式会社エルコ・トートー
株式会社ウシオライティング
日本フィリップス株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
東芝ライテック株式会社
大光電機株式会社
株式会社 MARUWA
小泉産業株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
ルイス ポールセン ジャパン株式会社
湘南工作販売株式会社
小糸工業株式会社
株式会社遠藤照明

